

NO.	テーマ等	人権教育の視点等
(5)	家族や地域の人々とのかかわりを考え、生活をよりよくする	3－(1)－ア 「市民意識」の醸成 3－(2)－ア 人間関係の活性化
	【活動対象領域等】 家庭科	【対象学年】 小学校 6年

1 ねらい

- (1) 家庭生活は、地域の人々とのかかわりで成り立っていることを理解する。
- (2) 日常生活の中から課題を見つけ出し、男女がともに責任を分かち合いながらよりよい生活を考え、実践することができる。

2 指導にあたって

- (1) 家庭科では、家族の一員として責任をもち、協力することで生活をよりよくすることを考え実践してきている。この授業では、地域に暮らす小さな子どもや高齢者などさまざまな人々とのかかわりによって家庭生活や地域社会が成り立っていることに気づくことが大切である。
- (2) 日常の家庭生活・地域生活の営みの中から課題を見つけ出し、性別にかかわらず、共に快適に生活し続けるためにできることを見つけ、実践していく態度を育成することが大切である。

3 指導計画（全6時間）

- (1) 第1次 家庭や地域でできることを考えよう〔2時間〕（＜本時＞2／2時）
- (2) 第2次 お世話になった人に気持ちを伝えよう〔2時間〕
- (3) 第3次 2年間でできるようになったことを振り返ろう〔2時間〕

4 備考

第1次の第1時では、よりよい生活を送るために家庭や地域でできることを考える導入として、教科書の他に、学習資料2の「工夫された避難所」の図を活用する。さまざまな立場の人々が集まる場の学習資料を活用し、男女共同参画社会のためにどのような工夫が必要かをふまえながら、自分たちにできることを考えさせる。

第2次は、自分の生活の中での家族や地域の人々とのかかわりを振り返り、感謝の気持ちを伝える活動を設定している。ここでの地域の人々とは、地域ボランティアやシニアクラブなど、日常生活や社会教育の場面でかかわりのある方々である。感謝の気持ちを手紙に書き表し、布で製作した小物を贈ったり、学校に招いてお茶会を開いたりする。

第3次は、家庭科のまとめの学習として設定している。2年間の学習内容をノート等で確認させながら、友だちと一緒に自分の成長を喜ぶとともに、中学校での学習に期待をもたせる活動である。「トライやる・ウィーク」などで交流のある校区の中学校と連携をして、家庭科の成果物を見る機会を設定することで具体的にイメージできる時間にする。

5 展開例

第6学年 家庭科学習指導案

(1) 本時の目標

家庭や地域の生活の様子を総合的にとらえることで、よりよい生活を送るための改善点に気づくとともに、「協力・協働」の見方・考え方を働かせながら、工夫できることを考え、発表する。

(2) 準備物

教科書、ワークシート

(3) 展開

学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 支 援 等	学 習 評 価
1 課題をつかむ。 ・家庭科で学んだことを振り返る ・生活の営みを見つけ自分の生活を振り返る	□ワークシートを配布する。 【ワークシート】 ・家庭科学習で習得したことを書かせることで振り返りをさせる ・教科書の写真やイラストを提示し、家庭生活と地域生活の営みと、自分の家庭では誰がしているのかを振り返らせる ・家庭の傾向を確認して課題を提示する	[技能] (ワークシート) ・よりよい生活を送るための改善点を見つけることができる。
よりよい生活を送るための工夫を考え、発表しよう。		
2 課題を深める。 ・一人学習 ・グループ学習 ・まとめ	□ワークシートの(ウ)工夫点を整理させる。 【ワークシート】 ・ワークシートに考えを記入させ、グループで話し合わせる ・家庭によって工夫点は違うので、協力・協働の視点で考えを交流させる ・協力・協働しながら取り組んでいる事例を挙げながら、よりよい生活につながる工夫点をまとめる	[知識] (ワークシート) ・生活の工夫がよりよい生活につながる事が分かる。
性別や年齢にかかわらず家族で互いに協力したり、地域の人々と協力・協働したりする工夫をすることで、よりよい生活となることが分かる。		
3 振り返りをする。	□本時の学習を今後の生活にどのように生かすかを記入させ、発表させる。 【ワークシート】	

Point

家庭科学習によって、できるようになったことを振り返り、男女共同参画社会の視点を踏まえて、家庭や地域での生活をよりよくしようと協力する態度を育てる。

6 学習資料 1

ワークシート

よりよい生活を送るための工夫を考えよう

(なまえ)

振り返ろう

家庭科で学んできたことを書いてみよう

学習のめあて

性別や年齢にかかわらず多様な人々が集まる家庭・地域で、生活を快適に送るための工夫を考えよう

見つけよう

生活の営みを見つけよう (ア) の列に書き込もう

(ア) 生活の営み	(イ) 自分の家庭では誰がしている	(ウ) よりよい生活への工夫点
(例) ・風呂そうじ ・祭りの準備	(例) ・おとうさん ・おばあさん	(例) ・私と弟が曜日を決めてそうじをする。 ・学んだことを生かし、私がお茶を出す。

振り返ろう

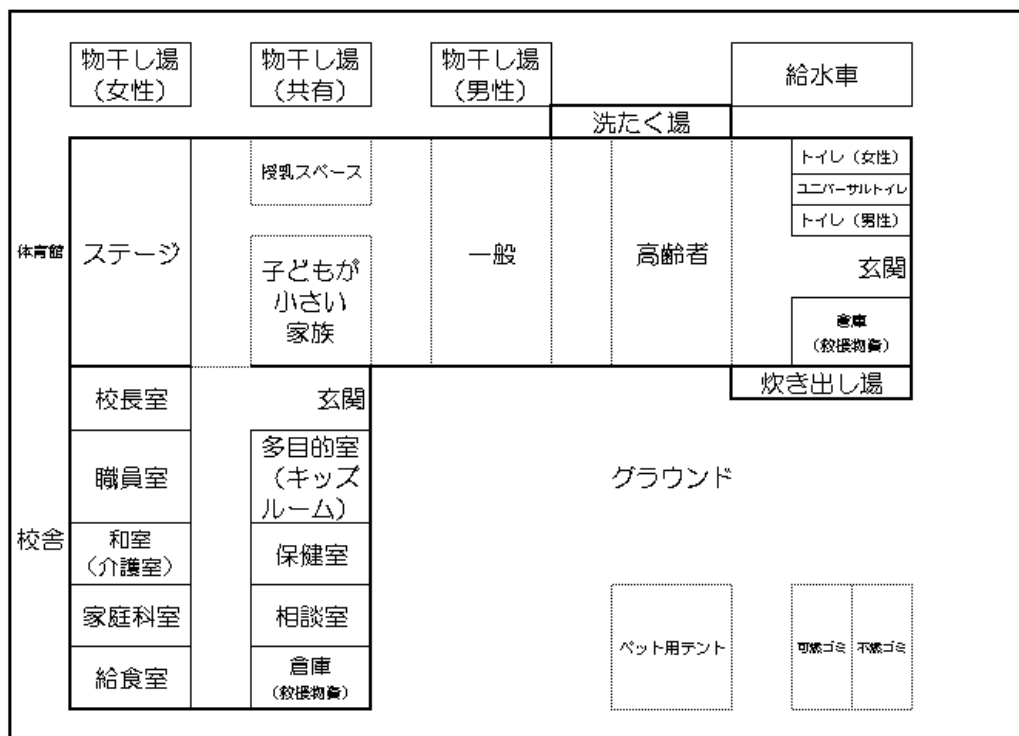
生活の営みはだれがしているのかな (イ) の列に書き込もう

深めよう

自分でできる生活の工夫を (ウ) の列に書き込もう

まとめ

7 学習資料2（工夫された避難所の例）



第1時では、教科書の他に、上記の「工夫された避難所」の図を活用する。さまざまな立場の人々が集まる場の生活を考えることで、男女共同参画社会のためにどのような工夫が必要かを考えることができる。

この図は、授乳スペース、物干し場、ユニバーサルトイレ、キッズルームなどの工夫がされている。要支援者へ配慮する視点から、生活を工夫することで、困り感を軽減できることに注目をさせたい。

【学習を深めるために】

本時では、家庭・地域の営みの発見例を見つけやすくするため、教科書の写真やイラストを活用する。教科書には、家庭生活と地域生活の営みが分かりやすく示されている。教科書全体を通して家庭と地域の営みを振り返ると、さまざまな生活の営みに気づくことができる。

児童はそれぞれの家庭の状況によって見つける営みに違いがある。さらには、児童が見つけることは難しい営みもある。例えば、一人暮らしの高齢者の家に弁当などを届けている人たちが地域社会にはいることなどである。これらの営みを見つけるためには、幅広く知識を得たり、体験したりすることが大切となる。誰が、どのような営みをしているのか、生活を支えているのかを振り返り、実態を受け入れたうえで、快適でよりよい生活にする工夫について考えさせたい。